

## 1 はじめに

本校区は掛川の東部に位置し、周りは水田や茶畑が広がるのどかな地域である。また、市の中心部より遠隔の地にあるため、他地域から転住してくる人は多くはない。生徒たちは、幼稚園の時から小規模の同一集団で生活をしてきていることから、互いによく知り合っており、地域に支えられて素直で優しい子ども達に育っている。

しかしその半面、自ら考え主張したり、自分で判断し解決する主体性や、最後まで粘り強くやり抜こうとする力が弱いといった課題が見られる。このような生徒たちが、将来にわたって主体的に自己の力を可能な限り発揮し、自己決定や主体的な判断・選択によってよりよく生きていくためには、生活の場を超えた広い交流活動をおこない、自他の良さや違いを認め合う中で互いに高め合うことが大切であると考え、本研究テーマを設定した。

## 2 研究主題を受けて

本校区には東山口小学校と日坂小学校、東山口小学校のすぐ隣にさかがわ幼稚園を有しており、小中学校とも小規模で、児童・生徒数は減少傾向にある。1園・3校が比較的隣接しており、移動距離が短いこともあり、幼小中の連携がとりやすいという好条件にある。そこで、研究主題である「共に生きる力をはぐくむ特別活動」を受け、校区内の小・中学校で共通日課を設定し、学校間の交流活動をおこないやすくしていきたいと考える。また、朝活動や清掃など一日の生活の流れを同じものにするにより、小学校から中学校に進学する際のギャップを低くすることも狙っていきたい。

## 3 実践

小一プロブレムや中一ギャップといった言葉が多く聞かれるが、本校区では小一プロブレムを“小一ホップ”、中一ギャップを“中一ステップ”と前向きな言葉でとらえ、幼から小・小から中への移行が「なめらかな接続」と「適度な段差」であることを目指してきた。そして、中三卒業でジャンプ、自主的に生きる子供たちを育てたいと考えて実践を積み重ねてきた。

### (1) 中一ギャップを“中一ステップ”に変える小・中の連携

#### ① 中学1年生母校訪問

小学生が夢と希望を持って中学に入学してもらえるよう、2月に中学1年生が母校を訪問し、中学校生活や部活動についてアドバイスする活動をおこなった。1年前までは同じ小学校で生活していた先輩・後輩であるため、小学生が分からないことや心配なことについて気兼ねなく相談したり、中学生が安心して入学できるように励ましたりする姿が見られた。

#### ② 小・中合同での行事の共同実施

年齢や経験の差を生かして活動を共にすることで、先輩としての自覚や下級生を思いやる気持ちを育て、自他の違いを認め合うことができる。このような異年齢での集団活動を通して、互いに高め合う活動をおこなった。5月には、小中合同で芸術鑑賞会を実施した。また、中学校の合唱祭の中間発表と、市の音楽発表会に参加する小学校4年生が合唱交流会を実施したり、市の陸上大会に出場する小学校6年生の陸上練習に、中学校の陸上部の生徒が参加して指導したりするなどの活動をおこなった。

いずれの活動でも、中学生がリーダーシップをとり、活動を工夫しながら取り組むことができた。

### ③小・中あいさつ交流活動

中学生が東山口、日坂各小学校の昇降口前で児童とあいさつを交わす活動をおこなった。回数を重ねる毎に中学生の参加希望者が増え、活気も出てきた。日常のあいさつにすぐに直結するわけではないが、「あいさつ活性化の契機」としておこなっている。

### (2) 幼・小・中で一貫した取組

本校区では、幼・小・中が連携して、校区の子どもたちを12年間で育てていくことを目指している。そのため、生徒指導などで一貫性ある指導をしていくことを目指している。

#### ①あいさつは「だ・い・じ」

あいさつは、人間関係づくりの基本であるため、校区で重点的に指導してきた。友達、先輩・後輩、教職員、保護者、地域の方と自然にあいさつができるように、「**だ(誰にでも)・い(いつでも)・じ(自分から)**」を、幼・小・中共通の合い言葉に設定し生徒会の活動として取り組んできた。

#### ②そうじは「だ・い・じ」

毎日のそうじにおいても、「**だ(だまって)・い(一生懸命)・じ(時間いっぱい)**」を、幼・小・中共通の合い言葉に設定し、生徒の自主的活動として取り組ませた。教員も、子ども達と一緒にそうじをおこないながら、やり方などを指導してきたが、「そうじはだ・い・じだよ」と言えば、どの年齢の子どもでもやるべきことがわかる。12年間同じ言葉で取り組むことから、生徒たちのそうじに対する意識を高めることができた。

### (3) 地域と連携した取組

子どもたちの健やかな成長のためには、家庭や地域との連携が不可欠である。そこで、幼・小・中が連携し、家庭や地域に協力を求めていくための「子育て十ヶ条」を作成した。

子育て十ヶ条は、校区の幼・小・中で共同作成したもので、月別の子育てに関する重点目標を定めてポスターにしたものである。ポスターは校舎内に掲示したり、社会体育でも利用し地域の方の目につきやすい体育館や地域の公会堂、店舗に掲示をしてもらったりし、地区のいろいろな所で目にすることができるようにした。ポスターに掲載する写真は、地域の青少年健全育成会主催のフォトコンテストで募集した中から選ばれたものである。さらにカラー刷りで全家庭に配布をし、ホームページや学校・学年だよりなどでも周知を図ってきた。月別重点目標の内容は、例えばテスト前にノーメディア週間を設定して、幼稚園児・小学生の弟や妹がいる家庭でも全員が協力して重点目標に取り組むことができるようにするなど、学校生活と家庭生活をリンクさせる形で決定してきた。ただ単に理想をあげるのではなく、日々の生活で意識づけしやすい項目を設定することで、家庭への浸透を図ることができた。

## 4 おわりに

研究に取り組み、中1ギャップが解消されたことが一番の成果だと考える。日坂小学校と東山口小学校の同じ学年同士が交流することにより、中学校に入学した時点ですでに顔なじみとなっており、抵抗なくクラスに入ってくれた。また、小中の様々な交流により、中学校の校舎や校庭、学校生活の流れ等を知ったりするよい機会になり、中学校生活の見通しをもつことができた。これにより、校区内のどの学校も問題行動や不登校児童・生徒が少なく、大変安定している。

また、子育て十ヶ条を保護者だけでなく健全育成会で配布をしたり、学区のいたるところに掲示をしたりしてもらうことで、地域全体で子どもたちを教育するという意識をもってもらうことができた。保護者も学校に対して大変協力的である。

今後も、固定化された人間関係の中で12年間で過ごす生徒たちが、より良い人間関係を築いていけるように、教師が子どもの実態をしっかり把握し、教師集団がさらに連携していかなければならないと考えている。

【資料1】母校訪問の様子



【資料2】小中合唱交流会



【資料3】小中合同芸術鑑賞会



【資料4】小中合同陸上練習



【資料5】小中あいさつ交流活動



とても懐かしく、小学校から  
中学校だともものすごく大人に  
なったようで、うれしかったです。  
先生たちも変わらず、校長先生も  
いつもどおり門のところに立っ  
ていました。

私が小学生だったら、すごく  
緊張すると思う。でも、大きな声  
であいさつしてくれる子もいて、  
とてもうれしかったです。





【資料6】 幼・小との様々な交流



小中合同道徳授業



幼稚園訪問

【資料7】 校区共通日課

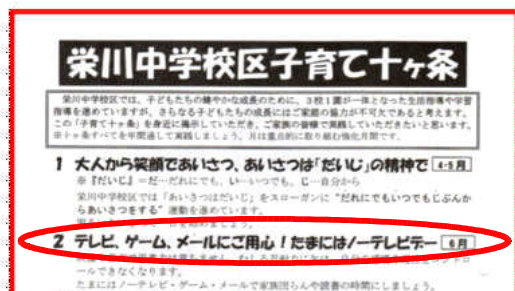
	栄川中学校	東山口小学校	日坂小学校
朝活動	8:00～ 8:25	8:00～ 8:20	8:00～ 8:25
第1時	8:30～ 9:20	8:20～ 9:05	8:25～ 9:10
第2時	9:30～10:20	9:15～10:00	9:20～10:05
業 間		10:00～10:20	10:05～10:25
第3時	10:30～11:20	10:25～11:10	10:30～11:15
第4時	11:30～12:20	11:20～12:05	11:25～12:10
昼 食	12:35～12:50	12:05～12:50	12:10～12:50
昼休み	12:50～13:15	12:50～13:15	12:50～13:20
清 掃	13:20～13:30	13:20～13:35	13:25～13:40
第5時	13:40～14:30	13:40～14:25	13:45～14:30
第6時	14:40～15:30	14:25～15:10	14:25～15:10

3時間目と5時間目を小・中で同じ時間になるよう設定した。これにより、交流活動がしやすくなった。

職員間での交流や研修も活発におこなわれた。

【資料8】 青少年健全育成会とタイアップして作成した子育て十ヶ条とポスター

子育て十ヶ条



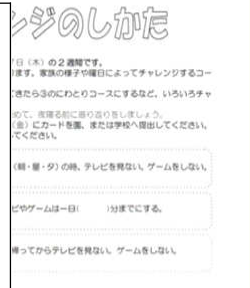
青少年健全育成会フォトコンテスト



ノーマディア週間お知らせ



子育て十ヶ条ポスター



体育館，公民館，学習センター等様々な場所に掲示